

ICTを活用した教育体制構築に関する実証事業 報告書

1. 学校名	
青島日本人学校	
2. テーマ	
ICTを使った双方向的な授業展開とオンライン授業の充実をめざして	
3. 取組の概要	
<p>ICTを活用した教育体制構築の上で、本校では第一に双方向のオンライン授業を「円滑に実施すること」と「オンライン授業の充実」を図った。また、学校の再開以降は「ICT機器を活用した授業展開のさらなる充実」と「再度休校になった際に止まることのない体制作り」を目指して実証事業に取り組んだ。</p> <p>その中で意識したことは、コロナ禍以前の形に「戻す」ことではなく、これからの社会の在り方を考え「創造していく」ことである。これからの社会をともに生きる児童生徒の資質や能力、態度の育成につながるよう実践に取り組んだ。</p>	
4. 取組の背景・目的	
<p>(※非常時でも途切れない「学びの保障」の在り方と関連づけて記述してください。)</p> <p>青島日本人学校は、現在全校児童生徒 50 名前後の小規模校である。以前より iPad やノート PC を使用した学習は行っていたが、コロナウイルスによる新型肺炎の影響を受け、青島日本人学校も 2020 年 2 月～5 月の期間臨時休校となり、休校期間中の児童生徒の学びの保障や精神的な負担の軽減、生活リズムを整えることなどを目的に双方向のオンライン授業を実施した。</p> <p>オンラインによる双方向の授業は、2020 年 2 月 14 日の時点では、3 月初旬には休校が明ける見通しであったため「学校より出している休校中の課題の補充」と「児童生徒の心身のカウンセリング」が主な目的であった。しかし、コロナ禍の影響を受け、休校期間が延長となり、学校再開の見通しが立たなくなり、オンライン授業による学習の質の向上や授業時間の拡充が重要課題として挙げられた。また、休校が続く中で新年度に入り、オンライン授業を継続していく中で、授業を行っていく上での教員の負担感や評価面の難しさが新たに課題として挙げられた。</p> <p>このようなオンライン授業における課題の解決や ICT を活用した教育活動の充実(オンライン・対面両方)を図り、さらに今後第 2 波、第 3 波等により、再度の休校になった際にも児童生徒により良い学びが保証できるようにするためにも ICT を活用した教育体制を構築していきたいと考え、実証事業に取り組んだ。</p>	
5. 取組の実施日程	
日程	取組内容
2月	・Zoom による双方向の学習支援開始
4月	・Zoom による双方向のオンライン授業の開始
8月	・教育機器、ソフトの購入
9月	・校内研修の実施(電子黒板・ロイロノート・ライズの使用方法について) ・家庭への周知(ロイロノート・ライズについて)
10月	・授業、評価への活用開始 ・学校交流(小学部5, 6年生) ・オンライン企業訪問(中学部)

11月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校交流(小学部1年生) ・リモート工場見学(小学部5年生) ・現地校とのオンライン交流(小学部3～6年生) ・職員へのアンケート実施(学校評価アンケート／アプリ、会議ツールに関するアンケート)
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT 保護者アンケート実施
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT教育推進のための校内研修の実施 ・mbot の導入 ・再度オンライン授業となる(Zoom) 1月28日～

6. 具体的な取組内容 (※詳細に記載し、付属資料があれば添付してください。)

取組内容一覧

1. 学校同士が連携し、オンライン授業の共同実施や児童生徒間の交流を行う取組み p3

- ①小学部1年生交流学习(下関市立本山小学校)
- ②小学部5、6年生交流学习(佐世保市立江上小学校)
- ③小学部現地校とのオンライン交流について



2. 非常時でも途切れない授業の実施、一人も取り残さない学習支援に向けて p5

- ①国内待機教員と在青島教員の連携による学級経営
- ②オンラインでの日本語指導
- ③児童生徒の渡航に伴う隔離期間のオンライン授業
- ④2度目のオンライン授業について



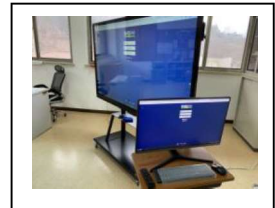
3. ICTを活用した児童生徒への指導・評価やカウンセリングを行う取組み p8

- ①Zoomによるオンライン授業の課題
- ②ロイロノートの活用
- ③二重在籍生徒へのオンラインによる進路指導、カウンセリング



4. 学習の効率化を目指し、ICTを活用した授業の実践 p8

- ①ロイロノートを使った実践報告
- ②デジタル教科書
- ③電子黒板の活用
- ④mbotについて(プログラミング教育)



5. 企業等外部の有識者を招いたオンライン特別授業を行う取組み p10

- ①中学部オンライン企業訪問
- ②小学部5年生リモート工場見学



6. 職員研修について p11

- ①Zoom、情報モラルに関する研修
- ②その他の職員研修



7. 児童生徒・家庭への呼びかけ p12

1. 学校同士が連携し、オンライン授業の共同実施や児童生徒間の交流を行う取組み

①小学部 1 年生…下関市立本山小学校との交流(使用機器:電子黒板、Zoom)

実施月 11 月

生活科「むかしからつたわるあそびを楽しもう」

1 ねらい

昔から伝わる遊びを教わったり、一緒に遊んだりする中で人と関わったり、触れ合ったりすることの良さに気づき、すすんでふれ合い、交流しようとするができるようにする。

2 交流当日の内容

19日 自己紹介 アイスブレイク / 26日 遊びの紹介 青島…ジェンズ 本山小学校…福笑い

3 交流の様子

ジェンズを紹介し、お互いに遊ぶ中で、青島の児童が「〇〇くん(本山小学校の児童)2回できてすごいですね！」と伝え、本山小の児童も「2回できたよ！」と嬉しそうな様子であった。2回目ということもあり、1回目と比べ、リラックスした雰囲気の中自発的に交流しようとする姿が見られた。



ジェンズ

4 児童の感想

- もっとこうりゅうかいがしたいです。みんながやりかたをわかってもらえてうれしかったです。ふくわらいのやりかたがよくわかりました。
- こうりゅうかいでジェンズのせつめいをがんばりました。
- みんながやりかたをわかってくれてうれしかったです。
- 日本の人にもっとおしえたいです。またこうりゅうかいをしたいです。

※[JSQ アルバム\(小学部1年生オンライン交流\)](#)

②小学部 5、6 年生…佐世保市立江上小学校との交流(使用機器:電子黒板、iPad、Zoom、パワーポイント)

実施月 10 月

Zoom を使用して学校間での交流を行った。「ブレイクアウトルーム」を使用することで、「大勢での交流」に加え「少人数グループによる双方向の交流」を行うことができた。また、共有機能は児童でも十分に使いこなすことができ、事前に作成したスライドをもとにスムーズに発表することができていた。ハウリングを避けるため、教室が複数必要になるなど課題もあるが「一人一人が主体的に参加できる」という点において、非常に効果的であり、児童も交流を楽しんでいるようであった。

また、オンライン交流に対して、当初交流校は「オンライン」という形式に抵抗を感じていたようであった。しかし、事前の打ち合わせや当日の交流を通して職員、児童共に「こんなに簡単なんだ！」と実感し、「今後も機会があればぜひ行いたい！」と感想を述べるなど、今回で完結するのではなく、今後つながる実践となった。 ※[小学部 5.6 年生オンライン交流会の様子\(青島日本人学校 HP\)](#)

③小学部現地校とのオンライン交流について

1. オンライン交流になった経緯

現地理解学習の一環として、現地校への訪問と現地校小学生の青島日本人学校への来校による交流を隔年で行ってきた。今年度は本校が訪問する予定であったが、新型コロナウイルスの影響で訪問は難しいかと考えていた。相手校とのコンタクトは夏頃から行っていたが、10月中旬に「訪問は難しいがオンラインでの交流はどうか」との提案があり、今年度の交流はオンラインにて実施することとなった。

2. 事前の打ち合わせについて

・事務員による電話でのやりとり

- 8月下旬 交流会の打診
- 10月初旬 交流会をオンラインにしようかと提案あり。
- 10月中旬 交流会に参加する学年や人数の打ち合わせ。
- 10月下旬 交流会の日程変更やスケジュールの打ち合わせ①
- 11月初旬 交流会のスケジュールの打ち合わせ②
- 11月中旬 Zoom 接続テスト①② Q&A の中国語訳作成、肖像権、内容など詳細確認。
- 11月24日 3時間目 オンライン交流会

3. 当日の交流内容

人数:上清路小学校4年生 40名、

青島日本人学校児童 18名(3年:4人、4年:3人、5年:5人、6年:6人)

時程:1. 校長先生あいさつ(上清路小、青島日本人学校)

2. 学校紹介(上清路小)・・・動画

3. ダンス披露(上清路小)・・・LIVE 披露

4. 楽器演奏(上清路小)・・・LIVE 披露

5. 質問コーナー(上清路小・青島日本人学校)

6. 児童代表あいさつ(上清路小・青島日本人学校)

4. 成果○と課題●

○楽器演奏や合唱の鑑賞などを通じて現地校の雰囲気を知ることができた。また、子どもたちは事前準備も含めて交流を意欲的に楽しもうとしていたので、今後の中国語の学習意欲にもつながると感じた。

○現地校の友だちに中国語で自己紹介する場があることは、中国語の授業における学びの実践となるため、非常に価値のある機会となった。

●声が聞こえにくい所があった。対策として、事前に Q&A の回答はお互いに送っていたので、聞こえないところは教師の方で補足することは出来たが、聞こえにくさは今後も課題である。

※[JSQ アルバム \(上清路小学校オンライン交流\)](#)



2. 非常時でも途切れない授業の実施、一人も取り残さない学習支援に向けて

①国内待機教員と在青島教員の連携による学級経営

今年度は、コロナ禍の影響を受け、4月に新派遣者が渡航することができず国内待機となり「学級担任不在」という状況だったが、青島にいる教員と細かに連絡を取りながらZoomを使ってオンライン形式で児童生徒と対面、指導に当たった。

児童生徒にとってオンライン上であっても「担任の先生と会えた」という効果は非常に大きく、学校再開後も安心して登校できている様子であった。また、学級担任が青島に渡航できるようになった際の喜びも大きく、対面後もスムーズにコミュニケーションをとることができていた。

Zoomによるオンラインでの学級経営は、途中で担任が変わるといってもなく、実際に顔を合わせて話することができるため「学びの連続性」や「児童生徒にとっての心の居場所作り」の点において大きく力を発揮した。

②オンラインでの日本語指導

本校では、通常の授業に加えて日本語指導が必要な児童生徒に対し、取り出しの日本語学習を行っている。日本語指導を行っている家庭の多くが、生活言語が中国語であり、休校中は日本語に触れる機会がほとんどない状況であった。

そこで、Zoomによるオンラインでの日本語教室を行い、日本語指導を継続して行った。限られた回数、時間ではあったが、日本語で話し、学ぶ時間を設定することで、休校以前の学習の確認やオンライン授業時における日本語がわからないことへの負担を軽減することができた。



③児童生徒の渡航に伴う隔離期間のオンライン授業

日本から青島へ戻る際には2週間の隔離が必要(令和2年12月時点)であるが、隔離期間中、隔離先からオンラインでの授業への参加を行った。この際、実技教科に関しては、実施することが難しく、見学等になってしまうことも考えられるため、保護者と相談し、自主学習の形をとるなどした。

自習の際には「ライズeライブラリアドバンス」を使用するようすすめた。また、学習の進度が異なる場合もあり、担任、教科担任が聞き取りを行い、個別に自習内容を指示することもあった。

教室の児童を優先(想定した)しての授業だったが、「Zoom」を活用することで、オンラインの児童も交流活動に参加することができた。実技教科の時間には「ライズ」を使って自主学習をし、隔離期間中の補充学習を行った。オンラインでの授業への参加や学習アプリを活用することで、実際に登校した際の学習の遅れを緩和し、児童同士の関係づくりもできたようである。課題として、児童生徒側の通信環境(特にホテルの場合)がよくないことがあり、音声や映像の乱れがあったり、デバイスがスマートフォンなどの関係で、画面が十分な大きさがなかったりすることがあった。

④2 度目のオンライン授業について

1.オンライン授業になった経緯

山東省より青島市内の全ての学校は1月28日～2月27日までの間児童生徒の登校が禁止となったため、28日より全学年でのオンライン授業開始。

期間中は、日直や技能教科担当など、必要最小限の職員のみ出勤。他は在宅で授業を実施。

2.青島日本人学校オンライン授業中の時程

朝の会 8:30～ 8:45

※児童生徒の健康状況等の確認

1校時 9:00～ 9:45

2校時 10:00～10:45

3校時 11:00～11:45

4校時 13:00～13:45

5校時 14:00～14:45

放課後 15:00～ 会議・日本語教室・補充学習

小中ともに45分授業

※英・中会話を除く全ての教科を実施

上記の時程の通り、Zoom を活用した1日5時間(45分授業)のオンライン授業を行った。ただし、技能教科については、Zoomの接続は30分とし、残りの15分は教科に関係する課題に取り組む形を取った。また、放課後の時間は、オンライン会議や日本語支援が必要な児童生徒へのオンライン日本語教室、転入生徒への補充学習などを実施した。

3.オンライン授業参加にあたっての注意点(保護者配布文書より抜粋)

- ・9学年が同時に授業を行います。兄弟姉妹関係等で授業を受けることができない御家庭は、27日(水)までに、担任へ「ICT機器(iPad)貸し出し希望(別紙)」の提出をお願いします。学校にて「使用貸借契約書」に記入していただき、端末(iPad)の貸出が可能です。
- ・授業に必要な準備物や学習内容は、原則として金曜日にロイロノートを使っての配布となります。御確認の上、御準備ください。
- ・複数学年の授業については、下の学年のID・パスワードを利用することになります。
- ・保護者の皆様につきましては、操作補助や授業中の見守りをできる限りお願いします。
- ・開始予定時間の1～2分程度前になりましたらミーティングに参加してください。
(開始時間が過ぎても参加頂くことは可能です。参加方法につきましては、Zoomの手引きを御参照ください。)
- ・参加者名は児童生徒本人とわかるものにしてください。※児童生徒かどうか分からない場合は、ミーティングに参加できませんので御注意ください。
- ・授業になりますので、必ずビデオを「オン」にしてください。
- ・上記以外の時間や他学年の配信時間への参加、第三者へのIDの公開等は決してしないようお願いします。
- ・周囲の音声や画像等も入ってしまうため配信時の周囲の環境には御配慮下さい。
- ・児童生徒及び教職員の肖像権を守るため、配信の様子の撮影や記録は御遠慮下さい。

4. iPad、キーボードの貸し出し

2 度目のオンライン授業であり、事前に各家庭へオンライン授業に必要な機器や環境が整っているかの調査も行っていたため、大きな混乱もなくオンライン授業をスタートすることができた。兄弟関係等で機器が足りない家庭へは、iPad やキーボードの貸し出しを行った。この際、今回は iPhone などスマートフォンで参加していた児童生徒の家庭には iPad の貸し出しを進めた(※借用するかどうかの判断は各家庭)。これは、GIGA スクール構想にある 10.2 インチ以上の画面を児童生徒に保障するためである。

オンライン授業開始の前日に貸し出しを行ったが、非常に多くの貸し出し希望があった。

※iPad 貸し出しの際のチェック項目

- ・ iPad の貸し出す時点での状態の確認とキーボードがきちんと反応するかの動作確認。
- ・ 貸し出す iPad に保存されている写真や safari の履歴の削除。
- ・ Zoom やロイロノートがきちんとサインアウト(ログアウト)されているかの確認。
- ・ Zoom の動作チェック。
- ・ 貸し出し誓約書の記入。

5. オンライン授業におけるトラブル

オンライン授業 2 日目の 1 月 29 日(金)にオンライン朝の会～1 時間目の時間帯でほとんどの学年で「PC から Zoom にサインインできない」状態となった。VPN を通して繋いだり、iPad やスマートフォンからサインインしたりして(PC 以外のデバイスからはサインインすることができたため)対応した。

このトラブルに対し、情報教育担当が中心となって状況の把握と対応策の全体共有を行うとともに、今後同じような状況になることも想定し、2 月 1 日(月)のオンライン朝の会にて児童生徒へ指導を行った。

※児童生徒への指導内容(ネット環境等により Zoom にうまく入れなかった場合の対応)

対応①焦らずミーティングへの参加に再度チャレンジしてください。

対応②どうしてもミーティングに入れない場合は、担任や担当の先生にロイロノートで連絡しましょう。

対応③先生が Zoom に入れない場合もあります。その場合は、ロイロノートから学習の指示を送ります。Zoom には参加したままにしてください。

対応④先生と連絡が取れないときは、教科に関係することを自主学習として行いましょう。

国語…漢字練習、教科書を読む体育…ストレッチなど

(技能教科など教科に関係する内容が難しい場合は自分で考えて学習を行いましょう。)

※Zoom にうまく入れなかった場合の対応(職員)

対応①Zoom へ再度ログインする。(1 の方法を試す)

対応②ロイロノートのテキスト機能を使って児童生徒へ学習指示を出す。

6. 前回のオンライン授業と比較して

前回のオンライン授業に比べ、今回はスムーズにオンライン授業をスタートさせることができた。これは、前回の経験が生きていることはもちろん、職員だけでなく、児童生徒や各家庭の情報リテラシーも向上していることも大きな要因の一つだと考える。また、ロイロノートが導入されたため、提出物や学習内容もリアルタイムで確認、指導することができるようになった。ロイロノートを活用することで、インターネット接続の状態が悪く、Zoom に参加できない児童生徒に対してもテキスト機能を使用して指示を出すことで、「全ての児童生徒が安心して学習することができる場」の土台を作ることができた。

3. ICT を活用した児童生徒への指導・評価やカウンセリングを行う取組み

①Zoom によるオンライン授業の課題(2020 年 4～5 月)

4 月以降からこれまで Zoom による双方向のオンライン授業を継続して行ってきたが、授業は滞りなくできるものの、課題の提出やノートや学習の様子が十分にできない状況が課題として挙げられていた。一部児童には iodate を活用して課題のやり取りを行っていたが、アクセスに時間がかかるなどの課題点もあった。

②ロイロノートの活用

上記の課題について、ロイロノートを活用したことで、課題の提出やノートのチェックの質の向上、時間の短縮を行うことができた。また、ロイロノートでは、動画や音声のやり取りやデータの管理も簡単に行うことができるので、評価をつける際の記録としても効果を発揮した。

③二重在籍生徒へのオンラインによる進路指導、カウンセリング

日本の学校に通っているが、本校にも籍のある中学 3 年生の生徒(二重在籍)に対し、オンラインでの面接指導を行った。今年度はコロナ禍の影響もあり、オンラインでの受験を行う高校もあり、生徒も面接練習初日は、オンライン受験に対して非常に不安を抱いていたようだが、練習を重ねることで自信をもって受験に臨むことができたようである。

4. 学習の効率化を目指し、ICT を活用した授業の実践

①ロイロノートを使った実践報告

1. 中 3 総合

[\(青島日本人学校\)多文化共生における課題を Society5.0 の技術で解決しよう！～あったらいいこんなモノ～](#)

2. 中 2 英語

内容(スピーキング、ライティング、リスニング)

- I 4コマ漫画を作成する。
- II 録音機能を使い、音声を吹き込んで完成。
- III クラスのみんなで共有。

気づいたこと

- ・擬音語や擬態語を英語でどうやっていうのかという質問が出るなど、自分が表現してみたいと思う言葉が出ていた。表現力、語彙力アップ。
- ・録音する際に自分の発音やイントネーションの確認ができる

今後の工夫など

- ・ターゲットセンテンスを使うという設定にする
- ・絵を描くのに凝って時間がかかっていた生徒もいたため、こちらであらかじめ設定したイラストに、セリフを自分で設定すると効率がよいのではと感じた。

②デジタル教科書

デジタル教科書を使用する大きなメリットはやはり「教科書の視覚化」にあると考える。例えば国語科の授業において、範読機能を使用すると朗読だけでなく、今どこを読んでいるかわかりやすく表示される。

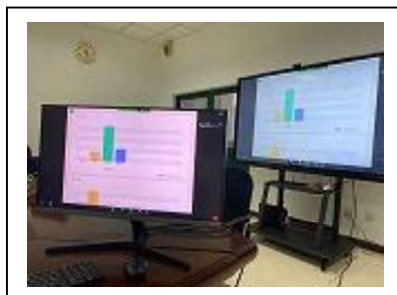
また、全体での共通確認も非常にしやすく、重要語句等には「ペン機能」を使ってすぐにチェックを入れる

こともできる。さらに、国語では作者からのメッセージや作品に込めた思いなども収録されており、いろいろな角度から作品への理解や読みを深めることができる。デジタル教科書は「大きい教科書を電子黒板に写す」だけではない、非常に効果的なツールである。

デジタル教科書を使った教員の声

- ・簡単に活用することができ、授業の準備に時間がかからない。
- ・課題として web 配信で使用する都度アクセスするタイプのデジタル教科書は、日によって繋がりにくいことがあったが、他の URL からログインすることで素早くログインすることができ、問題を解決することができた。
- ・まずは、教科書の中の必要な部分のみを拡大できることです。低学年だと、教科書のどこを見ればよいかわかりません。拡大して、どこを見れば良いのか、どこに線を引けば良いのかがすぐにわかります。それから、アニメーションによってブロックの操作などがわかりやすくなっています。画面のアニメーションを見ながら一緒にブロックを操作することができるので、視覚的にわかりやすいです。また、教材を動かすこともできるので、カードなどを動かすことで内容の理解がふかまります。さらに、教材の準備の時間を削減できることです。
- ・5年生の社会科の授業では、教科書に載っていない資料もあるのがありがたい。動画がついていて、理解が進むデータが多い。また、算数科では項目ごとに進めることができる。導入の時に、先に進まないで考えさせられる。ストップウォッチが着いている。補助教材の実物がいらぬ。

③電子黒板の活用



10月中旬より SGD86T9 多媒体知能一体机(以下:電子黒板)を導入し、職員研修を行った。オンラインによる遠隔授業を行っていた小6の算数と中学部の数学の授業を受講している児童生徒に「電子黒板を導入したことによる変化」について聞き取り調査を行った結果以下のような声が上がった。

オンライン授業を受けている児童生徒の声

小6 画面が大きくなって見やすくなった。マイクがついているのでこちらからの声がよく届くようになった。以前は先生の声が途切れることもあったが、途切れることなく聞こえる。

中1 画面が大きいので細かな式や文字、図形がはっきりと見えるようになった。

中3 以前(iPad を接続してオンライン授業を行っていたとき)は声を張らなくてはいけなかったが電子黒板だと声を拾ってくれる。カメラも(教室)全体が写るので良い。スライドの文字が見やすい。

音声や画像については、マイク(音声)・カメラ(画像)により、iPad をディスプレイに接続していた時に比べて非常にクリアになった。また、wifi が途切れてしまう問題も新たな TP-LINK ルーターにすることで解決し、よりスムーズにオンライン授業や iPad を活用した学習を行うことができるようになった。

(※6取組の成果参照)

④mbot について

mbot (blocky) を使ったプログラミング指導

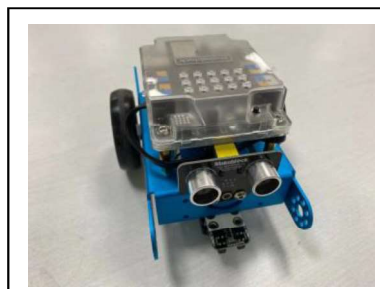
ねらい

2020 年から新たに扱われることになった「プログラミング教育」の学習にあたり、「風やゴムの力」(3年生)、「電磁石の強さ」(5年生)、「発電・蓄電」(6年生)で実感を伴う学習機器として車を利用してきたことをふまえ、車の自動走行をプログラミングで体験することで、これまでの学習内容と関連させて興味・関心を高められるようにする。その際、基礎編と応用編に分け、段階的に学習するなどして児童の負担に配慮して学習を進める。

学習の様子・結果

まだ、学習途中(基礎編)ではあるが、次の課題に興味を持って取り組む意欲的な姿勢が見られた。また、主体的に学習を進め、次々と課題を達成するようすが続いており、このまま応用編まで進め、プログラミングの良さについて実感を伴った上で、電気や力の学習と関連づけ、理科の有用性を意識できるようにしたい。

学習の様子



5. 企業等外部の有識者を招いたオンライン特別授業を行う取組み

①オンライン企業訪問(中学部)

実施月10月

- ・中学部オンライン企業訪問事前マナー講座 Zoom

Zoom を使用し「オンライン企業訪問に向けてのマナー講座」を行った。1 時間のオンライン講座であったが、通信機器のトラブル等もなく、スムーズに行うことができた。外部の方との交流に中学生も緊張感をもって取り組むことができた。教えていただいたことを翌日から早速実践している生徒もおり、良い刺激も得られたようであった。

※[中学部オンラインマナー講座の様子\(青島日本人学校 HP\)](#)

- ・中学部オンライン企業訪問①(ハーゲンダッツジャパン) BlueJeans

BlueJeans は青島日本人学校では普段使用していない会議ツールのため、うまく接続するか不安な点もあったが、大きなトラブルもなく接続でき、オンライン企業訪問も問題なく実施することができた。(最初こちらのスピーカーが初期設定でヘッドホンになっており、相手の声が聞こえなかったが、すぐに対応することができた。)生徒は、社員の方の話に熱心に耳を傾けていた。生徒にとって働くことについて考える、とても貴重な経験となった。

※[JSQ アルバム\(中学部オンライン企業訪問①\)](#)

・中学部オンライン企業訪問②③(セールスフォース・ドットコム、ソニー) Zoom・Microsoft Teams

セールスフォース・ドットコムとの企業訪問では、会社紹介に加え、企業が社会貢献する意義などについても話していただき、生徒は「働く」ことの違った側面についても知る事ができた。また、当日は10名もの社員が参加し、ブレイクアウトセッション機能を用いて、少人数(1ルーム社員2名、生徒2~3名)で人生グラフ(一人一人の経歴)の紹介や質疑応答などに応じてくれ、非常に有意義なグループワークとなった。

多人数の参加ということもあり、難しい面もあるかと不安であったが、打ち合わせから非常に丁寧に丁寧に対応してくださり、スムーズに実施することができ、45分の設定時間では短くらいであった。

SONYとの企業訪問は、セールスフォース・ドットコムからの続きであったが、最後まで集中して社員の方の話に耳を傾けていた。共通する考え方もあり、複数の企業に行ってもらうことで比較することができた。

※[JSQ アルバム\(中学部オンライン企業訪問②\)](#)

※[JSQ アルバム\(中学部オンライン企業訪問③\)](#)

②リモート工場見学(小学部 5 年生) Teams

Teams を活用して三菱自動車工業のリモート工場見学を行った。児童も交流活動に慣れていることもあり、スムーズに交流することができた。企業側が用意してくれた動画もスムーズに視聴することができた。社会科の単元のまとめとして行い、自分たちの学習したことについて実感を持って理解することができた有意義な実践となった。

※[JSQ アルバム\(小学部 5 年生リモート工場見学\)](#)

6. 職員研修について(実施時期については5. 取り組みの実施日程をご参考下さい)

①Zoom、情報モラルに関する研修

オンライン授業を実施するにあたり、授業の質の向上と同じように意識して行ったことが「情報リテラシー・情報モラル」の育成である。これは、急速に進むオンライン化・ICT 化に合わせてこれらの力の育成が必要不可欠であると考えたためである。児童生徒へ情報モラルの大切さを伝えていくことを目的に Zoom の正しい使い方や情報モラルについて職員研修を実施した。

②その他の職員研修

I 電子黒板の使い方について

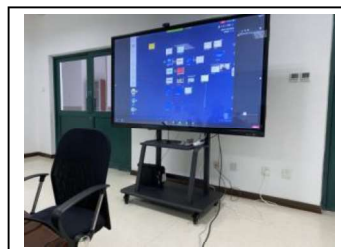
II ロイロノートについて

研修テーマ「授業におけるロイロノートの使い方」

Zoom にて、株式会社 LoiLo 須藤様よりロイロノートの基本的な使い方についてオンライン研修を受けた。研修を実際にロイロノート依頼することで、充実した研修となった。

III ラインズについて 研修テーマ「ラインズの使い方について」

IV ICT 機器を使った教育活動の実践研修



7. 児童生徒・家庭への呼びかけ

児童生徒や家庭への学校から以下のような指導や呼びかけを行った。

- ・休校時のオンライン全校朝会での情報教育モラルに関する講話
- ・オンライン授業を受ける上での注意点等についての HP への記載
- ・情報教育ガイドラインの配布と発達段階に合わせた情報教育や ICT 機器に関する学級指導
- ・小・中学部集会での情報教育担当からの講話(情報リテラシー・情報モラル)
- ・保護者アンケートや個別懇談時における聞き取りによる各家庭の実態把握と機器やアプリ等への接続等がうまくできない家庭への個別支援。
- ・長期休業中における iPad の貸し出し

7. 取組の成果

(※どのような課題をどのように解決したかや、生徒・児童への効果等について詳細に記載し、成果物があれば添付してください。また成果がどのような観点で他の学校の参考になるかも記載してください。)

① 取り組みの成果について

- ・教員による学校評価より
教育課程・学習指導

	2019 年度	2020 年度
視聴覚教材、教育機器などの活用	3.2	3.7
コンピュータや情報通信ネットワークを効果的に活用した授業の状況	3.2	3.8
授業や教材開発への外部人材などの活用の状況	2.9	3.2

キャリア教育

児童生徒の勤労観・職業観の形成や職業的自立に抜けた能力育成の体系的系統的な指導の状況	2.8	3.1
職場体験活動などの実施状況	2.8	3.2

全教員を対象に毎年実施している学校評価において、特に「視聴覚教材や機器、コンピュータや情報ネットワークを活用した授業の状況」において大きな改善が見られた。また、オンライン企業訪問の実施やオンラインによる学校間の交流などにより、「外部人材の活用」や職場体験活動などの実施状況については例年よりも大きな成果が見られた。外部との交流学习は、交流先の状況にも左右されるが、いつでも、どこからでも実施可能というオンラインの特性を生かした継続性のある教育活動だと考える。

※各家庭へのアンケートの結果や家庭からの意見については「添付成果物一覧 II 保護者の声」に記載

② 各課題への手立て

・オンライン授業における課題の解決について

休校時のオンライン授業の課題として教員からあがったことが「ワークシートやノートの確認や指導が十分にできないこと」そしてそのために「評価ができない」ことであった。また、iPad をテレビに HDMI ケーブルにて接続する形でオンライン授業を行ったが、「音声の聞き取りづらさ」や「インターネットが不安定な状態になりやすい」などの課題もあった。(オンライン授業中にミーティングホストである教員が離脱してしまうと、児童生徒だけとなり困る場面もあった。※事前に「教員側がインターネットの状態が悪くミーティングから離れてしまった場合」の対処法については指導してあったが、低学年等で動揺したり混乱したりすることがあった。)

「ワークシートやノートの確認」「評価」については「ロイロノート」を導入し、課題の解決を図った。クラウド上でデータを管理するため、教員側から確認することも容易となり、さらには課題の提出などもおこなうことで「より正確な評価」に近づくことができた。設定次第で児童生徒間のやりとりも可能となるため、評価だけ

でなく交流による学習の深まりも見られた。

「音声の聞き取りづらさ」や「インターネットが不安定な状態になりやすい」という課題は「電子黒板」と「TP-LINK ルーター」を導入した。導入以前はiPadのマイクを使っていたため、こちらからの声が聞き取りづらい場面があったが、大型の電子黒板にマイクとスピーカーを設置したことで、双方向の音声のやり取りが非常にスムーズに行えるようになった。また、TP-LINK ルーターをより強いものに切り替えたことでインターネットの状態も安定し、「音声や画面が途切れてしまう」「Zoomのミーティングからホスト(教員)が離脱してしまう」ことがなくなり、安定した状態でオンライン授業を実施することができた。

・交流活動の充実

本実践の大きな成果の一つに「交流活動の充実」があげられる。「①取り組みの成果について」でも述べた通り、小学部の日本の学校との交流や中学部のオンライン企業訪問などオンラインだからこそできる交流を多く行うことができた。また、現地校との交流もオンラインで行うことなど、コロナウイルスの感染防止につながるよう安全面に配慮して児童生徒が学習することができた。

対面での交流とオンラインによる交流は「共通して得られる成果」と「それぞれの長所を生かした成果」があり、どちらかが上位であるというわけではない。オンラインでの交流は、移動に要する時間の短縮や場所の制約などが無いなどのメリットから見ても今後も継続して実施できるものと考えられる。

・学習意欲の低下がみられる児童生徒への支援

オンライン授業を行っていく上で、授業内容の理解が不十分な児童生徒の学習意欲が低下する傾向が見られた。また、インターネットの通信状況が悪く授業に参加することができない児童生徒もあり、そのような児童生徒への学習支援が必要であった。

個別の支援として、「5具体的な取組内容2. 非常時でも途切れない授業の実施、一人も取り残さない学習支援に向けて」に記載したオンラインによる日本語指導と通信環境が不安定な児童生徒の状況確認を行った。オンラインによる日本語指導は、日本語の補充学習を行うだけでなく、少人数による指導のため、普段の授業の中ではなかなか発言できない児童生徒も生き生きと話すなど、心の居場所としての役割も果たせたように感じた。通信状況の確認は、wifiの状況がわからないという家庭もあり、苦勞することもあったが、接続テストや状況の説明を丁寧に行ったり、参加できなかった部分の学習内容を伝えたりすることで児童生徒や家庭に「学校とつながっている」という意識も持ってもらえるように努めた。

③ 添付成果物一覧

I 指導案

1 小学部2年生国語科学習指導案

単元名：馬のおもちゃの作り方／おもちゃの作り方を説明しよう

使用機器：電子黒板、iPad、ロイロノート、Zoom

2 小学部4年生理科科学習指導案

使用機器：電子黒板、iPad、ロイロノート、Zoom

3 中学部1年生理科科学習指導案 単元名：葉・茎・根のつくりとはたらき

使用機器(アプリ)：ノートパソコン、Zoom、NHK for school 動画クリップ

4 中学部2年生数学科学習指導案 単元名：ものの温度と体積

使用機器：電子黒板、iPad、ロイロノート、Zoom

5 中学部3年生総合的な学習の時間学習指導案

単元名：「社会で働く」「自分らしく働く」ことについて考えよう

使用機器：電子黒板、iPad、ロイロノート、Zoom

6 中学部美術科学学習指導案 単元名:様々な表現との出会い

使用機器:電子黒板、iPad、ロイロノート

II 保護者の声

III その他資料

- 1 「オンライン授業についてのご願い」(5月全家庭配付・HP用)
- 2 「より良いオンライン授業を行うために」(5月職員研修)
- 3 「ロイロノート・ラインズの使い方」
- 4 「情報教育ガイドライン」
- 5 「ICTに関する保護者アンケート」

7. 今後の課題・展望

(※次年度以降への継続性及び発展性に言及してください。)

今年度の実践を通して、次年度も継続して取り組んでいきたいことが「体験的な学習の充実」である。

「体験」と「オンライン」は一見離れている印象を受けるが、今年度様々な体験活動を実践する中で、ICT機器がもたらす効果の大きさを実感した。

実際に見て、触れて、感じるという「体験」は児童生徒にとって学びを実感し、理解を深める非常に重要な過程である。オンラインでの交流などはもちろん、普段の授業の中でも理科の学習で植物の観察をした際に、記録としてiPadを使用するなど、ICT機器の特性が活きるように授業をデザインしていくことで体験活動の充実につながると考える。

また、体験的な学習にICT機器を取り入れたり、ICT機器を使って体験的な活動を実施したりするとともに、ロイロノートや電子黒板等の使い方や情報モラルに関する職員研修と児童生徒、家庭への呼びかけを継続して行った。次年度以降もこれらの教育活動や研修を継続、発展させ、さらなる体験活動の充実を図るとともに、情報リテラシーや情報モラルの育成に努めていきたい。

8. 所感

本実践を通して、情報リテラシーと情報モラルの重要性を再認識した。指導者である教員は今後ファシリテーターとしての役割が強くなり、そのため教員は児童生徒につけさせたい力をどのような方法でどのように指導するか考える力がこれまで以上に求められるようになる。その時に必要なものが情報リテラシーだと考える。児童生徒が自分の目的に合わせて情報をうまく活用できるよう教員が進行していくためには、教員自身の情報リテラシーも必要不可欠だ。

また、情報モラルは「画面の先には生身の人間がいること」「SNS等に載せた個人情報は自分の手を離れ、世界中で閲覧できること」など、ICT機器を使う上でのメリットだけでなく、リスクについてもきちんと伝え、児童生徒とともに考える場をもちたい。実際に対面でのコミュニケーションではないオンラインだからこそ配慮すべき点について児童生徒とともに考えることで、実際の生活との繋がりをもてるようにしたい。

最後にICTを使った教育は機器や会議ツール、教育アプリを活用することが目的ではなく、「目的や目標を達成するための手段」であることを改めて認識し、これからも指導、支援を行っていきたい。

※提出いただいた報告書や成果物は、本事業の取組成果として公開する予定です。また、記載いただいた内容は文部科学省や海外子女教育振興財団のその他の資料にも使わせていただく可能性があります。

※記入欄は適宜拡張してください。